

# 令和6年度箕田小学校 校内研修計画

学校教育目標	自他を尊重し、ともに学び、高め合う子の育成
研究主題	対話を通して、学びを深め合う子どもの育成 ～算数科における箕田の対話スタイルの確立を通して～
教科領域等	算数科

## 1 主題設定の趣旨

### (1) 児童の実態より

本校は、4年間「子どもの主体性を生む、ICTを活用した授業デザイン」を主題として、研修を進めてきた。子どもが自分の意見の根拠をはっきりとさせ、自信をもつことができれば、より主体性をもって学習に取り組めるようになってきた。そのため、教師が「主体性」の持つ実践的な活動のイメージの共通理解を図り、適切な課題設定の上で課題の解決に向けて活動する子どもたちの助けとしてのICTの有効な活用を研修してきた。系統的にICTの活用をしていくことで、子どもたちはICTを扱う技術が向上し、学年が上がるにつれて課題解決の手段としてICTを活用するかどうかを目的に沿って考えることができるようになってきた。しかし、自分の意見を伝えることができる子は、未だ限られているという課題が残った。

本校の子どもたちは、学校行事や学年行事に、積極的に取り組んでいる姿がたくさん見られる。授業中でも、提示される課題に対して、考えようとする子が多い。わからないことがある時には、教師や友だちに助けを求める姿もみられる。しかし、安直に答えを求め、その過程を楽しむ姿はあまりない。学習中の対話をする場面でも、自分の意見を仲間に伝えることができず、声に出して考えを話す子は限られている。中には、自分の意見をもつことに難しさを感じている子もいると考えられる。また、話についていけず、考えることをやめてしまう子もいる。この実態の背景には、語彙力の不足や、読解力の低さ、学級の横のつながりの薄さ、課題への好奇心の低さなどがあると考えられる。このことから、非認知能力（[【サイト】人生にきっと役立つ！非認知能力を育てよう！.pdf](#)）にも焦点を当て、毎日の教育活動を考えていく必要がある。

そこで、今年度は、「対話」に重点を置くことで、子どもたち一人ひとりが力を発揮し、協働的に学び合う授業を研修していく。対話をするためには、課題を解決したいという思いをもつことから始まり、子どもたちどうしの横のつながりや、語彙の獲得、そして何より相手の話していることを理解しようと聴くことが大切である。今年度は、子どもたちによりよい対話を促すための本校のスタイルを探っていく。また、子どもたちがよりよい対話をするためには教師の対話をする力も必要だと考える。答えが明確であり、よりよいものを考え合う姿が想像しやすい算数を窓口を設定し、対話を通して、学びを深め合う子どもの育成を研究する。

コロナ禍や、スマートフォンの普及によって、人と直接関わり合い、対話していく良が見えにくくなった現在だが、将来、必ず必要となる力であると考え。対話をすることでよりよい意見が生まれ、よりよいものを作り出せることを経験し、子どもたちのこれからの役に立ててほしい。

全国学力学習調査やみえスタディチェックの結果から（今年度予定）  
児童アンケートの結果から（今年度予定）

### (2) 学習指導要領の位置づけより

平成29年3年告示の小学校学習指導要領には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の事項の実現を図ると明記されている。

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するように配慮すること。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善については、

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、計画力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(以下「見方・考え方」という。)が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

と、されている。  
算数科の目標

<p><b>知識及び技能</b> 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身につけるようにする。</p>	<p><b>思考力・判断力・表現力</b> 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などをを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭を的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。</p>	<p><b>学びに向かう力・人間性</b> 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>
--	---	--

## 2 研究の目的

子どもたちが課題解決に向けて、人と関わり合い、協働的に学びを深めていくことの良さに気づくとともに、伝え合う力を高め、思考力、想像力を育成するために、算数科における児童の対話を中心に据えた授業実践と箕田の対話のスタイルを探る。

## 3 研究の仮説

問いに対する答えが明確である算数科を窓口にすることで、児童が答えまでの過程を楽しみ、協働的に学ぶ喜びを感じられると考える。また、効果的な対話を行うことにより、思考力、想像力を育成し、自分の考えが広がり、深まることで、より自分の思いや考えが整理されていき、新しいことを発見し、よりよいものを生み出していくことができると考える。また、対話を行うことで、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見出す際、子どもたちにとってよりわかりやすいものを見出すことができるとともに、より効果的な理解しやすい数学的な表現を選択することができるかと考える。

## 4 研究内容について

### (1) 「対話」とは

それぞれが思ったことを好きなように話すことではなく、学習の課題について、話し手も聞き手も相手のことを大切にし、お互いの発する言葉を理解しようとし続けることの連続であると定義する。また、相手に伝えようとし、相手の考えを聴こうとすることで、自分の言いたかったことも整理されることである。

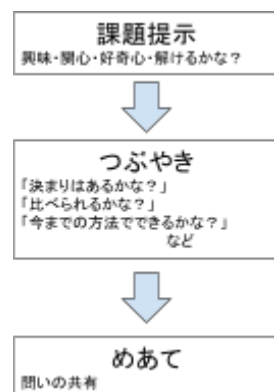
### (2) 「学びを深め合う」とは

「会話(取り留めのない話をやりとりする)」をするのではなく、「対話」を行うことで、相手の考えと比較し、自分の考えを広げ、深めることで、より自分の思いや考えが整理されていき、新しいことを発見したり、よりよいものを生み出していくことと考える。

## 5 手立て・指導について

### (1) 学習意欲を高める課題の設定 からめあてへ

課題は、子どもたちの興味・関心に沿ったもの、様々な考えが持てるもの、既習事項とつなげて考えられるもの、発展性(広がりや深まり)が期待できるものの中から設定していく。そして、子どもたちが課題解決のために、疑問をもったことをすくい上げ、問いを共有し、それをめあてとする。めあてには、「？」を用いることで、まとめ(答え)につながるものとする。練習問題の際は、自分めあてとし、一人ひとりが自分の力に応じためあてを設定していく。



また、学習に応じて課題解決に向けた学習活動の方法（何を使うかや、どんな形態で話すのか）を子ども自身が選択できる余地を作っていく。

(2) 学習環境の充実

単元に関連する既習事項を教室掲示し、子どもの学びの手助けとなるようにしておく。

(3) ペア・グループ対話

すべての教科領域でペア・グループ対話を取り入れていく。対話をするときの約束を全学年で示し、本校のスタイルを確立し更新していく。

箕田の話したいわ聞きたいわ  
 考えや思いを伝える！  
 考えや思いを聴く！  
 もっと知りたいことを尋ねる！  
 考えや思いを受け入れる！  
 わからないことを一緒に悩む！  
 わからないことを楽しむ！

それともなって、座席の形も目的にあったものとする。

全員前向き→教師との対話、一斉に指示する場合、黒板に注目させたい場合

グループ→班で一つのものを中心に置き、話し合う場合

コの字→全員で対話を行う場合

☆対話に応じてだけでなく、子どもたちの目に何が見えて、何が聞こえるかも学習の形態を選択する際 考  
 慮する。

(4) ICTの活用場面を想定

単元を構想する上で、より学びが深まる方法として、ICTの有用性【①情報を2人以上でシェアする、②情報を同じ目的(統合、分類、比較、関連付けなど)に沿って操作する】を引き続き探っていく。また、系統的にICTの使用方法を学ぶことで、高学年で、今の自分や目的に合った手段を考える際、ICT利用を選択肢に入れることができるように、技術をつけ有用性を体験させる。

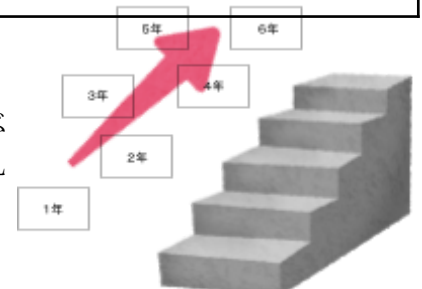
(5) 子どもと教師の対話（教師の言葉へのこだわり）

学習中の子どもたちのつぶやきを広げ、学習を組み立てていく。教師が「わかった?」「できた?」と聞く場合、わかっていなくても「わかった。」と子どもたちは話す。子どもたちがつぶやける 学級の環境づくりをもとに、つぶやきをコーディネートする教師の力量を日々高めていく。引き出した つぶやきやそのつぶやきをどう活かしていくかを蓄積していく。

箕田流教師の対話術（日々更新）	
「わかった?」「できた?」は子どもの口から。	子どもたちの自由なつぶやきの保証を邪魔してしまう場合がある。
わざと間違える	子どもの考えにズレを持たせ、疑問からさらに思考を促す。
「〇〇さんの気持ちわかる?」	発表の苦手な子や、考えを最後まで言いたい子の様子から、全体に返すことで、思考を促し、クラスのなかまの思いを大事にし想像していく。

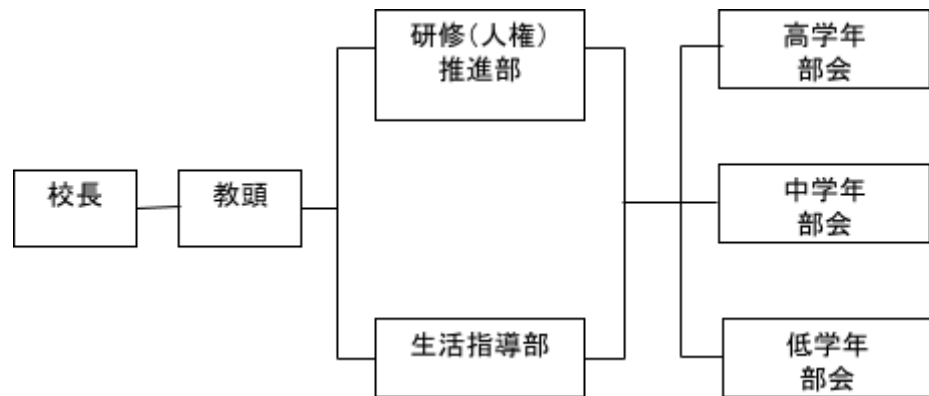
(6) 系統性が見える階段掲示

2ヶ月に1度、階段に各領域の系統性を掲示する。これから学ぶことと今学んでいること、過去に学んだことを見える化し、学びに見



通しをもたせる。

## 6 研修組織



## 5 研修委員（研修推進部会）（◎部長 ○副部長）

1年 伊藤 4年 中島 専科 中村（安）  
5年 ◎有馬 6年 ○近藤 特支 中村（佳）

## 6 研究授業について

年間2本、授業の公開授業を行う。

全体発表 → 2グループから授業提案を1本ずつ行う。  
事前検討&事後検討を行う。  
指導主事の先生に来ていただく。（2回）

人権発表 → 1本  
（人権の全体研1本【校区人権公開授業】）  
事前検討&事後検討を行う。

### ① 学年を縦断した教材研究を行う。

これまでの学年部提案ではなく、学年を縦断した組み合わせで授業提案を行う。縦断すること  
で、教師それぞれの教科領域の系統性がより深まると考えられる。これまで何を学びどう考  
えていたかや、これからつけていかなければいけない力を振り返ることもでき、それぞれの学  
級の子どもたちに学びを還元できると考える。

グループ①近藤，廣瀬，伊藤，黒田  
グループ②有馬，綿江，丹賀，中村  
安  
グループ③市川，中島，田畑，中村  
佳

### ② 指導案について

全体発表は教材解釈や指導についてなどもつけて指導案を作成するが、重要な点のみを簡潔に  
まとめる。

学年部内発表は、本時案のみの略案で構わない。

作成時に、各学年や学年部などでの話し合う機会を大事にする。

### ③ まとめについて

年度末に指導案に、成果と課題をつけて作成する。

## 7 その他

### (1) ミニ公開授業（教員の授業力UP）

## 経験年数5年以下研、師範授業形式（授業者の見方・考え方）・・・

全体研以外に校内でミニ公開授業を行う。

- ・公開する授業者のグループから必ず一人参観する。
- ・実施日と教科については、1週間前までに予告する。

## (2) 基礎学力をつけるための手立て

### ① 補充学習「みだっこタイム」について

時間・・・基本は月曜日の朝 8:25～8:40

\*必要に応じて放課後の時間を利用し補充学習を行う。

(放課後は5限で下校する学年の担任に補助を依頼できる。)

対象・・・全学年

### 内容

- ・基礎学力の定着を図る。今年度は算数の計算に限らない。既習内容の復習中心。
- ・ボランティアさんは依頼しない。

### ② 自主学习（チャレンジ学習）について

◎チャレンジ学習ノートを購入する。

◎「週1回は提出する」

などまとめる媒体や取り組ませる頻度・方法は各学年で相談して決める

→月に1度それぞれの学年から一人選び、通信として発行する月に1回程度校内の掲示スペースに掲示する

## (3) 英語の研修について

今年度も研修を続け、授業の充実を行っていく。国語科とともに言語能力の向上を目指す。

## (4) 道徳の研修について

今年度も、評価や「学びの記録」と授業の充実を行っていく。特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う

## (5) 読書環境の整備

- ・図書担当と連携して行う。
- ・木曜日に朝の読書時間、またはボランティアによる読み聞かせを実施する。

## (6) 年間学習計画一覧表について

昨年度の年間計画を参考にして、各学年で作成する。→ 担当でまとめをする。

## (7) モジュール学習について

- ・火、水、金曜日8:25～40に、15分間のモジュール学習を行う。

原則は、国語を中心に授業内容を進める形で実施する。ただし、行事の前など特別な場合はこれに限らない。

## (8) 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやSNSなどが児童生徒に急速に普及しており、これらの利用によってトラブルや犯罪に巻き込まれる事例が発生している。こうした背景を踏まえ、児童生徒が犯罪被害などの危険を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにするとともに、人権などの自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持ち、健康に留意して情報機器を利用することができるようにするため、情報モラル教育の充実を推進していく。その中で相手を意識した意思の伝達をより心がけられるような働きかけを大切に指導していく。

## 8 年間研修実施計画

	取り組み	月	全体研修の内容
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の研修内容を学校教育目標と照らし合わせ、生活指導、人権教育との関連を図りながら吟味</li> <li>・今年度の研修の方向性、その系統性の確認</li> <li>・日常の授業の充実（研究主題にむけて）</li> <li>・チャレンジ学習（主体性の育成）</li> <li>・補充学習「みだっこタイム」</li> <li>・実践の記録を残していく（成果と課題へつなげる）</li> <li>・定期的な自主研修の開催</li> <li>・ミニ公開授業</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の研修計画・方向性について</li> <li>・人権推進計画</li> <li>・見続ける子レポート研修</li> <li>・特別支援在籍児童、外国につながりをもつ児童、里山の児童の情報共有</li> <li>・スタディチェック自校採点</li> </ul>
		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育研修</li> </ul>
		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習の交流（箕田小の課題に対して）</li> </ul>
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権全体研「子ども理解の研修」</li> <li>・2学期教材の授業研究 → 学年を縦断した教材研究</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・見続ける子レポート交流</li> <li>・2,3学期に向けての教材研究</li> <li>・全国学力学習調査の分析</li> </ul>
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月研究授業1本（教科・・・年）</li> <li>・11月研究授業1本（教科・・・年）</li> <li>・人権授業（校区人権公開授業・・・年）</li> <li>・実践の記録を残していく（成果と課題へつなげる）</li> <li>・定期的な自主研修の開催</li> <li>・ミニ公開授業</li> <li>・日常の授業の充実</li> <li>・チャレンジ学習</li> <li>・補充学習「みだっこタイム」</li> </ul>	9	・研究授業
		10	
		11	・研究授業
		12	
三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の記録を残していく（成果と課題へつなげる）</li> <li>・定期的な自主研修の開催</li> <li>・ミニ公開授業</li> <li>・日常の授業の充実</li> <li>・チャレンジ学習</li> <li>・補充学習「みだっこタイム」</li> <li>・成果と課題の検討 及び 一年間の研究紀要の作成</li> <li>・一年間の取り組みの反省 次年度に向けて</li> </ul>	1	
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の見直し</li> <li>・見続ける子レポート交流</li> </ul>
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の反省・まとめ</li> </ul>

## 9 今年度の成果と課題